

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200875	事業の開始年月日	平成16年3月
		指定年月日	平成16年3月
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒 241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成30年1月	評価結果 市町村受理日	平成30年5月11日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者さまの愛情と所属の欲求を満たすために、「お手伝い」により持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係の構築に重点を置いて活動しています。</p> <p>また、今年度はさらに上位の承認欲求に対して日本漢字検定協会の「漢検」受検をプログラムとして取り入れ、一人ひとりにあわせた勉強の支援やお手伝いをする事で日々の生活の充足感と他者から認められる・評価されたいという内面の欲求へ対応しました。</p> <p>実際に今年度は10月に4名が受験し4名が合格しました。1月には1名増えて5名が受験されました。可否はまだ出ていませんが、次回6月に向けてすでに勉強を開始されているご利用者もいます。</p> <p>また、介護者のチーム力向上を図るために、10月の1ヶ月間「マシュマロ・チャレンジ」と称してチームビルド研修を行ないました。</p>
--

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル 9階		
訪問調査日	平成30年2月15日	評価機関 評価決定日	平成30年5月1日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩10分ほどの閑静な落ち着いた住宅地にある。建物は、鉄骨造2階建であり、広い敷地にゆったり余裕のある設計で建築された2ユニットの事業所である。リビング、ダイニングのレイアウトは、図書コーナーや一人で居られる場所、共同で制作をする場所を設けるなど、工夫したものになっている。職員はキッチンで調理作業をしながら、カウンター越しに共用空間で過ごす利用者の様子を見守りしやすい構造になっている。建物中央部には、陽の光が届く坪庭が設けられ開放感がある明るい共用空間になっている。</p> <p>また、事業所入り口には、子育てを応援する市の「ハマハグ」事業や「子ども110番」のステッカーを貼り、地域に開かれた事業所になっている。</p> <p><b>【理念の実践】</b> 事業所理念のキーワード「まごころの気持ち」「尊厳を大切に」を大事にし、理念の実践のため、事業所独自の「文法」を職員に提示している。利用者の意向等に対する応答の際は、まず、その意向に賛成、同意して全面的に受け止めることを心掛けている。こうした対応によって、利用者との信頼関係が築かれていき、利用者は穏やかな生活を送っている。利用者の「何かしたい」との思いに寄り添って「漢字検定」に挑戦する機会をつくり、昨年、合格者が出ている。今年も挑戦のため準備をしている利用者も支援している。</p> <p><b>【身体拘束の無い介護】</b> 事業所の、門扉、玄関、ユニット出入口は、一切施錠はなく自由に出入りができる。利用者は、リビングに設けられた広いベランダや庭を自由に行き来して外気浴等を楽しみ、事業所前の通りを犬の散歩で通る馴染みの地域の方と犬に声をかけたりしている。利用者の意向等に肯定的な対応を心がける理念の実践により、身体拘束の無い介護が実現できている。</p>
---

## 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようにになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。	理念は目指すホームの形を開設時に文章化したものである。職員には入職時の研修で説明し、入職後は1対1の対話方式で伝えている。理念は玄関と事務所に掲示している。利用者の意向に対し、まず賛成、同意することを実践して信頼関係を築き、理念の実現を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティアのマンダリン演奏やお話し相手と繋がっている。地元の中学生とも交流している 近隣の雪かきもしました。	町内会に加入し、管理者は、町内会で立ち上げた「災害プロジェクト」のメンバーになっている。地域には要援護者が多いため、ホームを一時避難場所にすることも検討している。町内会の盆踊りや防災訓練に職員が参加をしている。傾聴ボランティアが月2回、庭掃除、マンダリン演奏などのボランティアの来訪もある。中学校生徒の福祉体験学習の受け入れをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。	メンバーは、町内会長、副会長、地域包括支援センター職員、家族、職員2名である。今年度は、これまでに3回実施している。会議は、毎回、現場を見学をしてもらいながら現状説明をしている。参加者からはキッチンに置いてある消毒薬は危険ではないかと指摘があり改善に繋げている。また、玄関の洗面台にうがい用のコップがないとの意見を受け、コップを用意しているという事例がある。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議で事業所の月の行事や出来事を報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている</p>	<p>区の担当課には要介護認定の申請代行や運営推進会議の議事録提出のため出向いている。その他、複雑な制度面の相談をしている。区の感染症予防の研修に参加して、感染症防止のマニュアルを作成している。地域包括支援センター主催の「ふれあい祭り」で、地域のグループホームと共同で認知症診断のブースを担当し協力している。</p>	
---	---	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。	事業所の理念・方針により身体拘束をしないケアに取り組んでいる。門扉、玄関、ユニット出入口すべて施錠していない。理念の実践として、事業所の「文法」、まず、賛成、同意をして利用者との信頼関係を築いているので、施錠等の身体拘束の必要が生じていない。治療目的の一時的な拘束に関して医師の指示があった場合でも、利用者の立場に立って意見を言い、できるだけ負担軽減に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社労士を招いて日勤終わり1時間ほどの講習を聞いた。2日にわけて全スタッフが参加			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長にゆだねるケース多く、説明を明確に行える職員がいない。			

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関にリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。また、面会時にはお話を傾聴するよう努めている。</p>	<p>家族とは主にショートメールサービスを利用して日常的に連絡している。玄関等に「リクエストシート」を置いて、意見・要望等を記入できるようにしている。また、家族が訪問した際は、管理者、職員は話をよく聞いている。寄せられた意見・要望を受け、「漢字検定」への挑戦、合格につなげている。事業所内で受験できるように事務所のレイアウト変更などの対応をしている。</p>	
----	---	--	---	---	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。 管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。	朝夕の申し送り時にケアに関する連絡や引継ぎをしている。管理者は1対1で職員の話をしている。「リクエストシート」や必要に応じて実施するアンケートにより職員の意見を聞いている。職員の意見、提案に基づき申し送り時の記録の様式を伝わりやすく改善している。また、KJ法を取り入れ、職員が課題等をカードに記入して整理する取り組みをしている。	職員意見を取り入れる工夫をされていますが、職員同士が意見交換する機会が少ない様です。職員間の意見交換や情報共有のためにも定期的に職員会議を開くことを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。また楽しくやりがいののある職場を目指しチームワーク向上を目指した取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で、管理者とのマンツーマンで相談・指導が受けられる。新人にはエルダーメンターがつき、介護者が一番不安になる救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしてコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみから台所仕事まで能力と健康状態に応じて可能な限り家事や様々なお手伝いをお願いし持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。	友人、親戚の方が来訪している。来訪時は居室やリビングで湯茶のもてなしをしている。家族と一緒に自宅に帰って数時間過ごす方や、買い物に出かける方もいる。入居時には、これまでの生活が継続できるように、自宅の居室の家具類をそのまま移動するようお願いしている。パッチワーク、習字、俳句、挿絵などの趣味を継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間をとりもって会話を促したり、皆で歌を歌ったり、ゲームなどをして相互交流を図っている。また、積極的にレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情やそぶりなどにも注意して気持ちを汲めるようにしている。また声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。	まず、賛成、同意するという神田園の「文法」を使って、表情、仕草から思いや意向を確認している。言葉からは1割、あとは五感を使って把握している。意向の把握が困難な方には、これまでの生活パターンを把握し、意向を推し量って対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。またそれを日々のお手伝いやレクの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更し、現在1階で試験導入している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている	介護計画は「生活支援計画書」として、グループホームでの利用者支援に合わせた独自の様式を使用している。リクエストシート等に記載された職員の意見や家族の要望、医師のアドバイスを踏まえ、計画作成担当者が作成している。具体的な計画を計画書別紙として作成して、支援結果を毎日1カ月間記録しモニタリングして支援内容を定着させている。見直しは、状況に変化がなければ原則要介護認定の更新に合わせて行っている。	

27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然環境、近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用した生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している	かかりつけ医は利用者が選択できるが、全員が協力医を受診している。協力医は2週間に1回往診している。協力医以外の専門科は、家族対応で通院している。診療情報は家族から口頭で伝えてもらい、申し送りノートで共有している。歯科医は、毎週訪問があり、必要な方が受診している。週1回配置されている非常勤の看護師が、利用者の健康チェックや職員からの相談ごとに対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもったものについては申し送りノートに記載し広めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している	看取りは、利用者、家族、介護者、医師の意向が合致することが必要と伝えている。重度化に対応して食事形態を変えるなどの対応をしている。事業所では医療行為が出来ないため、終末期に家族と対応を相談すると病院を選択することが多い状況である。これまでに看取りを実施した事例はない。	利用者の急変や重度化に備えるとともに、職員の不安を軽減するためにも、医療知識や対応について、研修を実施されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会いのもと車椅子や歩行が困難な利用者の人をタオルを使った非難法などを体験、訓練した。また地域の消防避難訓練にも参加した。	今年度は、4月にショートメールサービスを活用して職員、家族との連絡訓練及び8月に消防署立ち合いで夜間想定防災訓練を実施している。各居室の入り口に、利用者の避難確認のためのプラスチックチェーンをつける工夫をしている。廊下には、事業所周辺の避難場所、海拔などを書き込んだ大きな地図を掲示している。ユニット入り口には利用者ごとの避難用リュックを備え、職員用の防災ヘルメットの用意をしている。非常備蓄は、食料、飲料水とも10日分の備蓄がある。その他、ガスボンベ、ブルーシート等の備品を備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応をしております	まず、利用者の意向に賛成、同意するという事業所の文法で対応することが、利用者の人格を尊重する基本になっている。漢字検定などに挑戦、合格することで利用者が自信と誇りを持つるように支援している。個人情報のファイルは、施錠できる事務室の書架に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、入浴などの希望があれば8割方、叶えられるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で選べない方は2日連続して同じ服にならないよう職員が配慮している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて普通食、ムース食、やわらか食、刻み食と提供している。職員は普通食を利用者と同じテーブルで食べている	献立と食材は配食業者から調達し、調理は職員が交代で行っている。職員は、利用者を見守ったり介助したりしながら同じテーブルで同じものを食べている。食事中は、落ち着いたクラシック音楽を流している。利用者は、下拵え、下膳、食器洗い、食器拭きをしている。外食や出前は「リクエストシート」等により希望を聴いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人にはラコールなどの補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせで支援している	個人の日常記録表に排泄パターンを記録している。3分の1程度の利用者は介助を必要としているが、他の方はほぼ自立で排泄している。トイレ誘導は、目の動きや仕草などで察して、羞恥心に配慮しながら行っている。居室にポータブルトイレを置いている方もいる。夜間は睡眠を優先するためパッドの大きさなど工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれにあわせて歩行、足上げ、腹圧マッサージ、階段昇降、ストレッチなど下剤にのみ頼らない排便コントロールを実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望やタイミングに合わせ入浴支援。入浴中は1対1でゆっくりできる機会なのでお話をしたりCDをかけたり入浴剤を入れてみたりする	週2回の入浴を基本としている。入浴を好まない方には、時間を変え、職員を代えて声掛けをしているが、気持ちを尊重し柔軟に対応している。入浴の際は、鼻歌を歌いながらなど、リラックスしてもらっている。入浴剤や、マイシャンプーを使用している方もいる。浴室、脱衣室には暖房設備が備えられている。しょうぶ湯や柚子湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分～1時間ほどで声掛けを行なう。また、外気浴など太陽を浴びてもらったりして夜も眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々の生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればできるだけ叶えられるようスタッフ間で仕事を融通し合っている。車で遠出することもたまにある。	日常的に散歩に出る機会は少ないが、日当たりの良い広いベランダに置いてあるベンチで外気浴をすることが多い。十分なスペースがある事業所の敷地で散策を楽しんでいる。初詣に出かけたり、花見の名所にドライブをしたりしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして、郵便ポストまで一緒に散歩しながら投函したりとやり取りと家族との絆を大事にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。	リビング、ダイニングは広く明るい空間であり、利用者の居場所を意識したレイアウトになっている。1人で居たり、共同で作業したりなど思い思いに過ごせるように工夫している。リビングに面した日当たりの良いベランダは、外気浴等に活用されている。キッチンからは、カウンター越しに、リビングで過ごす利用者を見守り出来る構造になっている。フロアの中央には吹き抜けの坪庭があり、陽の光が届いてキッチン、廊下が明るくなっている。廊下には、事業所周辺の大きな地図が掲示され、事業所の位置、地域防災拠点、海拔なども表示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は利用者、家族に持ち込んでいただき居室で一息ついていただけるよう配慮している	居室のドアは廊下から少し奥まっております、プライバシーに配慮した造りになっている。居室内は、1間の押し入れとエアコンが備え付けである。入居前に使用していたベッド、タンス等の家財道具は、なるべくそのまま持ち込み、住み慣れた環境を維持・継続する支援をしている。利用者はテレビ、仏壇、人形、絵や写真などを持ち込んでいる。	

55	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>食席のレイアウトや椅子を増やしたりと「自分らしく」生活を送って頂けるように配慮している。</p>		
----	---	---	--	--

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> <input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し常に確認できるようになっている。また、その理念どおりに利用者さまに提供できるよう日々努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の挨拶、地域の行事参加、ボランティアのマンダリン演奏やお話し相手と繋がっている。地元の中学生とも交流している近隣の雪かきもしました。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域との交わりあいを大事にし、表の掲示板に介護相談の案内を出し随時受け付けている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	玄関の洗面台にうがいコップ増設、防犯システム導入、危険物の保管場所に関して意見を反映させた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の月の行事や出来事を報告し、地域の行事にも参加させて頂いたり地域との関係を大事にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠や身体拘束はせずセンサーや見守りの中で安全を図っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が毎日手に取るファイルの表紙に防止喚起の用紙が貼られている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社労士を招いて日勤終わり1時間ほどの講習を聞いた。2日にかけて全スタッフが参加		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長にゆだねるケース多く、説明を明確に行える職員がいない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にリクエストシートを置き、面と向かって言い難いことも率直に要望して頂けるよう配慮している。また、面会時にはお話を傾聴するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リクエストシート、意見箱の設置。管理者は積極的にスタッフとコミュニケーションをし職員の思いや意見、家庭の悩みなどにも耳を傾けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している。また楽しくやりがいのある職場を目指しチームワーク向上を目指した取り組みをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の仕事の中で、管理者とのマンツーマンで相談・指導が受けられる。新人にはエルダーメンターがつき、介護者が一番不安になる救命処置については毎年普通救命講習を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域のグループホーム管理者とは、会合、地域包括支援センターのイベント、地域のイベントで交流・協働している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族との面談で事情を把握、また初期の信頼関係作りに多大な時間を割いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご家族と積極的にお話をしコミュニケーションをはかり、意見交換、信頼関係構築をしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居ありきの姿勢ではなく、見学・体験入居などで、本サービスの利用が妥当なのか一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみから台所仕事まで能力と健康状態に応じて可能な限り家事や様々なお手伝いをお願いし持ちつ持たれつ、頼り頼られての関係を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の会話の中で家族の話もとり入れると同時に面会に来て頂いた際には写真を撮るなどして絆を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族との外出がスムーズになるよう支援しています。また面会に来られた際はその空間・時間を大事にしてゆっくりとお話しして頂ける様努めている。手紙や電話で知人との関係を維持している方への支援。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間をとりもって会話を促したり、皆で歌を歌ったり、ゲームなどをして相互交流を図っている。また、積極的にレイアウトや席替えをして、その時期の関係性や認知症状に対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去＝関係の終わりとは考えず必要があれば転院先への情報提供はもちろん相談に応じています		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	表情やそぶりなどにも注意して気持ちを汲めるようにしている。また声掛けは「～していただけますか？」と説明提案式にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメント書式を用いてご本人視点での生活歴や趣向の把握に努めている。またそれを日々のお手伝いやレクの参考にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ちょっとした変化やその時の発言や表情なども記録できるように書式を変更し、現在1階で試験導入している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の意見を尊重しリクエストシートを作成し本人がよりよく暮らせる為に日々話しあいに努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の職員間の情報共有や日々の細かな事でも記録に記入する等してケアプランを作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	豊かな自然環境、近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用した生活を支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のささいな変化や疑問に思った事や気づきを伝え助言をもったものについては申し送りノートに記載し広めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報をまとめた用紙に加えスタッフによる口頭での日常注意点などを伝えている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を1年に1度受講することを法人で決め開始している	/	/
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防士立会いのもと車椅子や歩行が困難な利用者の人をタオルを使った非難法などを体験、訓練した。また地域の消防避難訓練にも参加した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩、目上の人、お客様、神田園の大原則を心得て尊厳を尊重した対応をしております		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	神田園文法を用いて「～しませんか？」という説明提案の声掛けと肯定的な返答を行ない、利用者の自己決定支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	散歩、入浴などの希望があれば8割方、叶えられるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で選べない方は2日連続して同じ服にならないよう職員が配慮している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各個人の能力に応じて普通食、ムース食、やわらか食、刻み食と提供している。職員は普通食を利用者と同じテーブルで食べている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分共に各利用者が十分に摂取できているか日々記録をチェックし十分ではない人にはラコールなどの補助食を提供している。水分量は医師の指示をもとにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアの声掛け、食前には口腔ケア体操をするので唾液の分泌を促している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類のリハパンやパットを組み合わせ支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況の確認とそれにあわせて歩行、足上げ、腹圧マッサージ、階段昇降、ストレッチなど下剤にのみ頼らない排便コントロールを実施している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	希望やタイミングに合わせて入浴支援。入浴中は1対1でゆっくりできる機会なのでお話しをしたりCDをかけたり入浴剤を入れてみたりする		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝をされる方については寝たらそのままではなく30分~1時間ほどで声掛けを行なう。また、外気浴など太陽を浴びてもらったりして夜も眠れるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ボードをつくり服薬の状況を勤務する介護者全員で確認できる。誤薬防止のため、薬の確認は介護者二人で確認しながら行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日本漢字能力検定協会の「漢検」に挑戦し日々の生活の張り合いや尊厳欲求への働きかけを行なっている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩の希望があればできるだけ叶えられるようスタッフ間で仕事を融通し合っている。車で遠出することもたまにある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持参された方は事務所の金庫でお預かりし、必要に応じて使用できことを伝えていきます		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の電話で家族にしたり、手紙を書いたりして、郵便ポストまで一緒に散歩しながら投函したりとやり取りと家族との絆を大事にしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	視線をコントロールした居間フロアのレイアウトにより利用者同士の人間関係、認知症による混乱や不快刺激を軽減させている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	柱や間仕切りを利用して意図的に死角を作る事で共有空間でもプライバシーが保てるよう配慮している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具は利用者、家族に持ち込んでいただき居室で一息ついでいただけるよう配慮している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食席のレイアウトや椅子を増やしたりと「自分らしく」生活を送って頂けるように配慮している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム神田園

作成日

平成30年5月1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		利用者の急変や 重度化への不安が 職員にある	職員の不安を 軽減する	医師・看護師 に対する助言・指導 を受けやすくなる 体制を作る	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。